

本との 出会いを 楽しむ

第23回

社長の本棚

「学問の散歩道」

榊原 彰

弘前大学人文学部経済学科卒業。1986年日本アイ・ビー・エム株式会社に入社。2005年、IBM 最上位技術職であるディスティングイッシュト・エンジニアに任命。その後同社東京基礎研究所にてソフトウェア工学の責任者、グローバル・ビジネス・サービス事業 CTO、スマーター・シティ事業 CTO を経て、2016年日本マイクロソフト株式会社に執行役員 最高技術責任者として入社。2018年よりマイクロソフトディベロップメント株式会社 代表取締役社長を兼任。



インターネットが一般的に使用されるようになってからのここ 25 年ほどの世界の劇的な変化には目を見張るものがあります。クラウド技術とスマートフォンによって、私たちは常時ネットに接続できる環境を手に入れたことによって多くの文献を簡単に探し出すことができます。それらを移動の最中に見ることも可能ですし、他人と瞬時に共有することもできます。仕事や勉強に必要な情報だけではなく、エンターテインメントやショッピング、レストランの予約等、生活の様々な場面でこのテクノロジーが役に立っています。このテクノロジーは、経済の在り方も変えつつあります。車、宿、ファッション、施設等、私たちの身の回りのモノは所有する経済(オウンド・エコノミー)から、共有する経済(シェアリング・エコノミー)へと変わりつつあります。シェアリング・エコノミーにおいては需要と供給の「神の見えざる手」はクラウドの上で機能しているのです。

これらの変化においては、物事を多様性をもって見る考え方が非常に重要です。このような時代に求められるのは「マルチ・ディシプリン(複数領域)」を網羅する動き方であり、さらにそれらの領域を組み合わせるさらなる独創性を発揮する「インター・ディシプリン(領域連携)」な活動です。もちろん1人1人がいくつもの専門領域を網羅することには限界がありますから、得意な領域をもつ複数人が専門性を柔軟な姿勢で持ち寄る必要があります。しかしそもそも個々人のレベルでこうした領域の多様性を受け入れる素地がなければイノベーションは生まれません。ですから私たちは専門性を磨くとともに、他の領域にも興味をもって知識や経験を探求する努力を続けなければならないのです。

私が今回ご紹介する『虚数の情緒～中学生からの全方位独学法』は、まさにこうした領域の壁を越えた考

え方を提示している大著(総ページ数は1,000ページに及びます)です。2000年に初刷が発行された本書は約20年が過ぎた今でも普遍的な示唆に富み、著者の吉田武先生の主張は色あせることがありません。私たちにとって学問は学科・教科に分類された単独の領域ではなく、考え方が関連しあい文化を形づくるものであることが良く理解できます。本書においては虚数の在り方を軸に人類の文化を包括的に把握するという試みがなされています。『中学生からの～』とありますが、社会経験を積んだ大人にこそ読んでいただきたい名著です。数学を軸にして芸術や歴史、哲学等に言及している壮大な新教養書となっています。ダグラス・ホフスタッター著の『ゲーデル、エッシャー、バッハ - あるいは不思議の環』(GEB)も同様のアプローチを試みた大著だったと思います。しかし、GEBが相当難解な抽象概念や複雑な文章表現を用いているのに対し、吉田先生は、概念を分かりやすい例で提示したり平易な文章で論じてくださっており、数学が嫌いだとか論理学が苦手という方でもあまり苦勞せずに読み進められるのではないかと思います。少しでも興味がわいた方は是非お読みください。全国学校図書館協議会選定図書にもなっている(2000年発行なので)20世紀最後の名著であることを保証します。

本館所蔵

『虚数の情緒：中学生からの全方位独学法』吉田武著 和図書(第1書庫 2F～5F)	410 Y86
『ゲーデル、エッシャー、バッハ：あるいは不思議の環』 ダグラス・R.ホフスタッター著 開架図書(本館 2F)	141.5 H81